

意見の概要と協議会の考え方

No.	貢	意見の概要	協議会の考え方
1	68～69	狭隘な道路の運行など、バス運行に柔軟性を持たせるために、ワゴン車の導入を検討してはどうか。	本計画「第7章 施策・事業」のうち、実施事業名「フィーダー（支線）交通の再構築」の「現状・問題点」においてお示ししていますとおり、市としましても小型ノンステップバス車両による運行が一部非効率となっていることは認識しており、同施策の「事業のイメージ」にありますとおり、小型バスの運行が難しい地域については、ワゴンタイプ車への変更を検討してまいりたいと考えております。
2	68～70	各スクールバスルートの輸送規模によって、運送手段を使い分けてはどうか。	スクールバスルートの運行につきましては、利用する児童数に応じて、小型バスにするのか、ワゴンタイプ車にするのかを検討してまいりたいと考えております。
3	75	モビリティ・マネジメントについて、定期的かつ規模の大きい取組を実施してはどうか。	実施事業名「市民意識の醸成」の「事業イメージ」にありますバスの乗り方教室の実施につきましては、園児等を対象としたモビリティ・マネジメントの一例として記載しているものであり、定期的かつ規模の大きい取組の実施については、モビリティ・マネジメントの実施状況を踏まえ、段階的に検討をしてまいりたいと考えております。
4	70	サービス水準の向上と運行の効率化による公共交通の維持・確保に向け、企業や病院、介護事業者の持つ送迎バス等の輸送力を活用してはどうか。	ご意見のとおり、市民の移動需要を満たすために多様な輸送資源を有効に活用することは必要であると考えており、現状を把握したうえで、実施の可否を含め、必要と考える交通ネットワークの構築を進めてまいりたいと考えております。
5	68～69	「らんらんバス」で利用が多い市街地を走る循環ルートには、パターンダイヤの導入を検討してはどうか。	コミュニティバス「らんらんバス」では、車両ごとに運行ルートを定めず、様々なルートを複雑に組み合わせたダイヤにより運行しています。また、ダイヤの構成には乗務員の休憩時間等も踏まえて作成していることから、運行間隔が固定化されるパターンダイヤの導入は、現在の車両数では困難であると考えております。
6	58	基本理念に「小野市」の文字を入れて、「小野市地域公共交通の構築」、「みんなで支える小野市の地域公共交通」といった表現に変更してはどうか。	ご意見を参考に、以下のとおり修正させていただきます。 みんなでつくる「つながりあるまち・小野」 ～生活と活力を支える公共交通ネットワークの構築～